
第2部 遺跡の環境と調査経過

第1章 遺跡の立地

上黒岩遺跡は、愛媛県上浮穴郡久万高原町上黒岩 1092 番地に位置する（図1・2）。久万高原町は、2004（平成16）年に久万町・美川村・面河村・柳谷村が合併して誕生した町で、発掘調査時は美川村に所在した。また、この地は通称「ヤナセ」と呼称されており、遺跡は「ヤナセ」または「ヤナゼ遺跡」と呼ばれ、当時の新聞記事にも「ヤナセ遺跡」と掲載されている。遺跡は、西日本最高峰の石鎚山（標高1,982 m）の西南麓を源とする面河川と久万川が合流する地点から、久万川を約3 km遡った右岸に立地する。久万川は面河川と合流したのち、南下して高知県に入り仁淀川とさらに合流して土佐湾にそそぐ。高い山々に囲まれた谷川沿いの山間部で、このあたりは四国でも降雪が見られる唯一の地域である。この久万川から山に向かって約35 mの位置に、高さ約20 m標高419.8 mの石灰岩壁が川に向かって突き出た形を成している。その下に岩壁の窪んだ部分が存在し、いわゆる岩陰が形成され、この岩陰部分に上黒岩遺跡は存在する（図9）。遺跡の標高は約397～395 mで河床面との比高差は約10 mほどである。

（小林謙一）